

海外インターンシップを運営・実施 国際経済社会のリーダー養成を目指す

特定非営利活動法人
アイセック・ジャパン (AIESEC in Japan) 中央大学委員会

107カ国・地域に支部
34000人の学生が活動

海外インターンシップを通じて、国際経済社会を牽引するリーダーの輩出を目指して活動している学生団体がある。『特定非営利活動法人アイセック・ジャパン (AIESEC in Japan)』で、地区・大学ごとに24委員会があり、中央大学委員会もそのひとつとして活動している。

世界各国で大学生が中心になって運営し、大学ごとに委員会があるアイセックとは、どんな団体で、どんな活動をしているのだろうか。

そこで、アイセック中央大学委員会の2009年度委員長を務めた渡辺千尋さん(法学部4年)と、1年生の夏休みにポーランドでスタディツアーを行った小川直子さん(法学部2年)、それにロシアでインターンシップした経験があるインドネシアからの留学生のササ・カルテエカさん(文学部3年)に話を聞いた。

現在、中央大学委員会のメンバーは20人。「途中で辞めちゃう人が多いんです。アイセックは日本では他の国々に比べて、まだまだ知られていないのが残念です」と渡辺さんはいう。

アイセックは107カ国・地域に支部がある国際組織で、1700以上の大学を対象に、34000人の学生が活動に取り組んでいる。毎年、世界中から5500人ほどがアイセックが行う海外インターンシップに参加している。

アイセック・ジャパンでは年間、300人ほどを海外の企業などに派遣、あるいは日本に受け入れていく。日本の学生を海外に送り出す事業と海外の学生を日本に受け入れる事業に取り組んでいるのが、アイセックの学生メンバーだ。

受け入れ企業探しに奔走 まだまだ低いブランド力

「中央大学委員会でも昨年度は20人のインターンシップ生の交換に関わりました。日本から学生を

送り出した分、海外の学生をできるだけ多く日本に受け入れたいので、今は受け入れてくれる企業・団体の開拓に力を入れています」

こういう渡辺さんから中央大学委員会のメンバーが熱心に取り組んでいるのが、「営業活動」だ。メンバーは、会社四季報やベンチャー通信、OBからのつてを頼りに、インターンシップを受け入れてくれそうな企業・団体を探しては、理解を得るために訪ね歩いている。だが、企業・団体のカベは予想以上に厚い。

「昨年度は3社の受け入れ先を開拓しましたが、なかなか快諾してくださる企業は少ないです」と渡辺さん。「企業側からは『大学生がやっていることだ』と軽く見られてしまう」のが悩みで、「海外の学生は優秀なので、社員の方々と変わらないくらい会社の力になれると思います」と理解を求めらる。

渡辺さんは、1年生の夏に、法学部のやる気応援奨学金を活用したボランティア活動で知り合ったインドのアイセックメンバーとの交流経験がある。「インドではアイセックは大学生の間でも人気で、多くの企業が参加しています。日本の企業に対してもアイセックのブランド力を高めていきたい」と話す。

ササ・カルテエカさんは、2ヶ月間、中央大学の送り出しを得て、ロシアでのエイズ防止を呼びかけるインターンシップに参加した。中大に留学してから、将来に役立つ経験をしたと考えたか



ロシアのインターンシップに参加したカルテェアさん

らだった。
「出発前の中央大学委員会のメンバーはもちろん、現地のアイセックメンバーが親切だったから、不安はなかった」というカルテェカさんは、帰国後、中央委員会のメンバーになり、現在は運営に携わっている。

活動を通じ、1年で大きく成長 決断力・行動力・思考力など磨く

小川直子さんは、1年生の夏休みを利用し、ポーランドに行って、スタディツアーを行った。いわ

ゆる実地調査で、ポーランドにインターンシップに行く学生はどういう環境で過ごすのか、生活する場所や受け入れ先の会社を自分の目で確かめた。同時に、現地のアイセックメンバーと交流し、親交を深めることができた。

「インターンシップ生の受け入れに関してメルでのやりとりをする時、一度顔を合わせているのではないでは大きな違いが生まれません」

こう語る小川さんは、「入学時は何をすることも受身だった」という。それがポーランドでの体験などを通じて、今ではリーダーに立候補するほど積極的になった。この1年間、「人を育てる」ことを目標に活動してきたという渡辺さんは、小川さんが大きく変化したことを喜んでいる。



アイセック中央大学委員会の右から渡辺さん、小川さん、カルテェアさん

委員長として活動してきた渡辺さんもまた、「この1年間、人を動かし、組織を動かしてきたことで決断力、行動力、思考力などリーダーに不可欠な要素を身につけることができたと思います」と自分自身の成長を実感している。

アイセック・ジャパンでは、春・夏・秋の年3回、国内会議が開かれ、夏の年2回、トレーニングセミナーがある。また世界中で開かれる多くの国際会議に学生メンバーが参加しているという。

「インターンシップでは勿論、合宿での議論やワークショップ、企業の方々のお話を聞いて、グローバルな社会を体感することができるので、問題を解決する力など社会に出てから必要な力に身につくと思っています」
こう語る渡辺さんに、カルテェカさんと小川さんは顔を合わせて、うなずいた。

(学生記者 新部真子 Ⅱ
文学部今春卒)